

**進捗状況の概要** 【1ページ以内】

本事業では、京都大学、関西大学及びアセアン連携大学と協力して、社会基盤・環境分野での「インフラ人材」を育成することを目的とし、短期・中期の交流から学位取得を見据えた長期の交流までを含む以下の5つの国際交流プログラムを、計画を上回る参加者を得て実施中である。

**【平成28年度】**

特定教員及び事務職員からなるプロジェクトオフィスを立ち上げるとともに、学内運営会議（1回）及びアセアン連携大学における事業推進会議（6回）を実施した。平成29年3月には、オープニングFDシンポジウムを開催し、15の連携大学の教員31名を京都に招へいし、今後5年の事業内容と協力関係を確認した。また、海外事業現場への学生派遣先や短期インターンシップ実施のために、海外で事業展開している企業との調整を実施して、平成29年度以降の準備を整えた。

**【平成29年度】**

計画に従って以下の全てのプログラムを、計画以上の参加を得て実施した。

- ① 学部生を対象とするアセアン連携大学での集中講義を組み合わせた海外企業体験プログラム：ベトナム2名、ミャンマー2名、カンボジア1名、タイ1名を海外の建設現場に派遣し、アセアン諸国でのインフラ整備の重要性を学ぶ機会を与えると同時に、以下のプログラム②に合流して短期留学を体験させるプログラムを実施した。
- ② 修士課程学生を対象とする双方向短期留学プログラム：アセアン連携大学から23名、京都大学から12名、関西大学から4名の参加を得て、京都大学で2週間、カセサート大学で2週間の夏期集中講義を実施した。集中講義には海外展開する企業での短期インターンシップやダム建設現場を組み込み、気候変動下でのレジリエントな社会形成の重要性を理解させるプログラムを実施した。
- ③ 修士課程学生を対象とする双方向中長期留学プログラム：ハノイ工科大学、カンボジア王立農科大学、マヒドン大学から述べ3名の6ヶ月間の学生受け入れを実施するとともに、延べ3名の日本人学生を3ヶ月、ベトナム及びミャンマーに派遣して、アセアン大学研究者と議論しつつ国際的に研究を行うための経験を積ませるプログラムを実施した。
- ④ 修士／博士課程学生を対象とする学位取得を見据えた協働学生指導プログラム：ヤンゴン工科大学の博士課程学生2名を京都大学に招へいし、博士課程論文作成の指導を実施した。
- ⑤ ④と連動した修士／博士課程学生、若手教員を対象とする気候変動適応ウィンタースクール：ミャンマー、カンボジア、ベトナムなど11か国17名の参加を得て、データ処理解析や演習を含む高度な2週間のウィンタースクールを京都大学で実施した。

平成29年11月には、連携大学教員による事業評価委員会及びFDシンポジウムを含むファカルティデベロPMENT活動をバンコクで開催し、学生の成績、学生の成長を相互に報告するとともに、今年度の事業内容の確認と成果を連携大学教員で共有した。また学生アンケートを踏まえて次年度へのプログラムの改善点を議論した。FDシンポジウムにはプログラム運営に係る大学職員も参加し、アセアン連携大学教員と京都大学教職員、関西大学教員が顔を合わせた運営委員会を実施することで、大学の世界展開力の強化を図った。また、本事業を展開する中で、連携大学と交流協定が結ばれ、平成29年5月にアジア工科大学と大学間学術交流協定及び部局間学生交流協定、平成29年9月にマンダレー工科大学と部局間学生交流協定を締結した。また、平成30年3月に台湾国立成功大学を連携大学に加えることが承認された。

**【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】**

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
0人	0人	0人	0人	21人	25人	19人	30人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

**特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】**

本事業では、京都大学、関西大学及びアセアン連携大学と協力して、社会基盤・環境分野での「インフラ人材」を育成することを目的とし、短期・中期の交流から学位取得を見据えた長期の交流までを含む多面的な国際教育プログラムを同時に実施する。プログラム全体における特筆すべき成果として以下を挙げることができる。

- 多岐の国際経験を学生に提供するために、学年進行を念頭に置き、学部、修士、博士課程までの多様な国際教育プログラムを開発した。
- 予算が限られている中で、派遣学生、受け入れ学生ともに自費あるいは連携大学等の支援によって参加した学生が大半であり、本事業による経費を中心としつつ、自費を含めた多様な資金により、計画以上の学生の参加を得た。
- 本事業で実施するプログラムに参加した日本人学生が、海外で実施される別のプログラムに積極的に参加しており、留学意識の向上に大きく寄与した。
- 本事業による国際教育プログラムの実施が、包括的な大学間交流協定（アジア工科大学、マンダレー工科大学）の締結に結びつき、全学的な大学ネットワークの強化に寄与した。
- 本事業を契機として、連携大学で実施される特別講義や国際教育プログラムに京都大学教員や学生が招待される等、大学の世界展開力の強化の成果が表れた。

以下、各プログラムの特筆すべき成果を挙げる。

## ① 学部生を対象とするアセアン連携大学での集中講義を組み合わせた海外企業体験プログラム

- 学部3年生を海外の建設現場に派遣するとともに、タイで実施しているプログラム②に一部合流して短期留学を体験させることで、早くから海外経験を積ませることができた。
- 大学同窓会ネットワークを利用して、安全が確保されている海外派遣先を選定することができた。将来この分野の有望な人材を育成する観点で、企業は学生受け入れに積極的であり、海外現場での学生教育を通じて大学-企業が共に益するようなネットワーク強化を図ることができた。
- 本プログラム後に別の留学プログラムに参加するなど、参加学生の留学意識向上に寄与した。

## ② 修士課程学生を対象とする双方向短期留学プログラム

- アセアン連携大学学生と日本人学生による少人数のグループを構成し、合計4週間のプログラムの中で、毎日午後はグループ討議及び発表を課す討議中心のカリキュラムとした。これにより、気候変動への適応に対する考え方が地域によって違うことを討議によって理解させるとともに、コミュニケーション能力の向上に寄与した。
- 国際的に展開する企業での短期インターンシップをカリキュラムに組み込み、気候変動に対する適応として何が社会で実施されているかを学ばせることができた。

## ③ 修士課程学生を対象とする双方向中長期派遣プログラム

- 6ヶ月間、ハノイ理工科大学、カンボジア王立農科大学、マヒドン大学の修士学生を各1名受け入れ、それぞれの学生が京都大学の開講科目を12単位以上修得した。また、日本人学生については、マンダレー工科大学、ヤンゴン工科大学、フエ農林大学に約3ヶ月派遣し、ミャンマー及びベトナムでの現地の問題解決を研究テーマとする国際的な教育・研究を体験させることができた。

## ④ 修士/博士課程学生を対象とする学位取得を見据えた協働学生指導プログラム及び⑤気候変動適応ウインタースクール

- ヤンゴン工科大学の教員と協働して当該大学の博士課程学生を指導するプログラムを立ち上げることができ、一部は、高度な内容の2週間の気候変動適応ウインタースクールに参加した。
- ウィンタースクールは、当初、想定した以上の参加希望が寄せられ、計画では2年に一回の実施予定であったが、毎年実施することとなった。